

消費地を感じる

in
JA東京
むさし

販売体験

2日目、JAと友好提携を結ぶJA東京むさしのファーマーズマーケット「小平ファーマーズマーケット」(東京都小平市)での販売体験がスタート。東京といえど師走の風は冷たい。しかし、キッズ達はそんなのへっちゃら。「いわて花巻のおいしい農作物です」と大きな声で来店者をお出迎えし店舗前ににぎわいを加えた。米やリンゴ、JA子会社の乳製品や雑穀商品の試食や試飲、PRチラシなどを配りながら、「私たちの家族や農家が一生懸命作りました」と、元気にPRしてくれた。

頼もしき姿

体験前のあいさつの練習を見ると、この調子で大丈夫だろうかと、実は不安で

キッズ達が
JA産をPR

サンふじ



恋するおコメ

ひとめぼれ



雑穀



子会社加工品



応援者たちの輪

in
家の光協会

(二社)家の光協会は、農業とJAの応援団として、「家の光」や「ちやぐりん」などの雑誌や本の発行に加え、JAや農家の支援を行っている。

発行書籍は人々が冊子を持ち寄り活用できる様に作られており、部会やJAなど



くれる人が
たくさん
いるのだ。

消費地での販売体験は、自分たちの家族が生産している農作物を購入する「消費者の生の声」を聞くことになる。消費者から寄せられる「おいしい」や「いつも食べているよ」という声と笑顔は、地域農業や故郷、農業を営む家族を誇りに感じるきっかけとなっただろう。

誇り

体験前、農家が一生懸命に育てたものであることを心に刻み、PR商品の勉強を行っただけあって、来店者からの雑穀ご飯の作り方やリンゴの味についてなど、さまざまな質問にも戸惑うことなく立派に受け答え。未来の後継者たちの頼もしさを感じた瞬間である。



流通現場を知る

in
大田市場

庄巻の大田市場

2日目、夜明け前にホテルを出発し東京都中央卸売市場(大田市場)へ。大田市場は毎日約3500tの農作物が全国各地・海外から集まる国内屈指の市場。JAからも1年を通して、多くの農作物が届けられ全国で販売される。市場内は大量の農作物が積み重なり、仲卸業者と売買参加者が農作物の値段をせり合い活気に溢れる。そんな様子にキッズ達は驚き、目を見開きながら見学した。

心に響く

「JAいわて花巻の農作物の品質は素晴らしい。首都圏や高級デパートで高い評価と人気があって、強く求められている」。これは、市場説明をしてくれた担当者の言葉である。説明を聞くキッズ達は背



なんか凄い

家族が生産する農作物がどのような経路を経て消費者の元に届くのか知らないキッズ達にとって、この研修はこれまで空白だった流通ルートが一本に繋がった瞬間であろう。もちろん流通を全て理解するのは不可能だが、それでもいい。「農業ってなんか凄い」そんな感覚でいいのだ。この「凄い」が農業について新たな興味を持つきっかけになるのだから。

農業塾に参加して

3日間の農業塾、キッズ達から感想を聞きました

- ★ 岩手の農作物がこんなにも評判が良くてうれしかった。
- ★ 売ることの大変さと売れたときの達成感を味わった。
- ★ 岩手の農作物がどこでどのように売られているのかを知れた。
- ★ 買ってくれた人が「岩手のものいつも買っているよ」「おいしい」「ありがとう」と言ってくれてうれしかった。
- ★ 班の皆で協力できたし、新しい友達がたくさんできた。
- ★ JAいわて花巻の魅力が東京の人たちに伝わってこれたし、うれしかった。
- ★ 普段の生活では体験できないことはかりで楽しい3日間だった。
- ★ 知らないことをたくさん知れた。

